

# 福岡教区「平和を祈る集い」 平和と人権 共に考える

## 子どもたちのための分科会も

福岡教区(ヨゼフ・アベイヤ司教)は8月12日、福岡カテドラル大名町教会(福岡市)で教区主催の「平和を祈る集い」を開いた。今年のテーマは「明日からできる平和を考える」。平和や環境問題を考える分科会、平和に対する主張」発表会に続き、複数の言語による平和祈願ミサがささげられた。自衛隊配備が進む日本の南西諸島の状況などを伝えるパネル展示もあった。1日を通して信徒、司祭・修道者、朝鮮学校やカトリック学校の生徒ら延べ430人余りが交流し、平和と人権への思いを分かち合った。



九州朝鮮中高級学校高級部の生徒たちが朝鮮舞踊を披露した

境への取り組み、日本の死刑問題とえん罪事件問題について学ぶ分科会も同時に行われた。祈りは「叫び」に変わる。午後の「平和に対する主張」発表会では、司祭・修道者、信徒、カトリック学校の生徒ら15人が意見を發表した。

視覚に障がいのある櫻谷一枝さん(熊本地区信徒)は、録音した音声データで思いを發表。地球温暖化の影響を日々実感していると、櫻谷さんは、物を大切に、無駄を出さない暮らしの工夫をしていることを紹介した。今後も自分のできることを見つけて、「将来の人々に(地球を)手渡すことができないか」と締めくくった。

その祈りは強められて「叫び」に変わる。「平和を愛し、平和のために諦めずに働く」ように、と語りかけた。集いの実行委員の一人、岩根のぞみさん(36/熊本・菊池教会)は熊本から家族4人で参加した。現在の社会情勢を考えると未来への不安もあるが、「みんなで頑張ればいい、(自分は)一人じゃない」と希望を感じたという。日頃から平和や地球環境について夫婦でよく話し合っているという夫の俊哉さん(37)は「今日は皆で考えて話すことができてうれしかったし、刺激になりました」と話した。小学4年生のはるさんは「平和のことを毎日あまり考えてなかったから、いろいろ考えられてよかった、1年生のなつ希さんは「クイズが楽しかった」と振り返った。

午後、「平和に対する主張」発表会とミサは、福岡教区のYouTubeチャンネル(https://www.youtube.com/watch?v=DrDp8Pj4n5E)で視聴できる。

午後、「平和に対する主張」発表会とミサは、福岡教区のYouTubeチャンネル(https://www.youtube.com/watch?v=DrDp8Pj4n5E)で視聴できる。

### 朝鮮学校中高生の差別反対アピール

集いの初めに、九州朝鮮中高級学校(福岡県北九州市)の中学・高校生が伝統衣装に身を包み、朝鮮舞踊とサムルノリ(民族打楽器の演奏)を披露した。朝鮮語と日本語の歌のコーラスもあり、生徒たちのひたむきな演技

「平和な世界をつくるための学び」小学生以下の子どものための分科会には、朝鮮学校とカトリック学校の中高生たちも加わり、小グループに分かれて「平和な世界をつくるために何が必要ですか。私たちに何ができますか?」という問いへの答えを話し合った。

小学生以下の子どもの中には「欲張らない」「相手の気持ちを考えて話そう」「周りの小さな争いをなくす」「神様の言うことを聞き合おう」といった意見が出された。聖書に関するクイズ、写真やイラストの中にある答えに丸を付けるゲームも行い、交流のひとときを持った。この他に中米・コスタリカ共和国の自然環境

「将来の人々に(地球を)手渡すことができないか」と締めくくった。英語「コミュニケーション」のオコト・ジヤネット・アディアンボさんは、イエスのあいつ「平和があるように」が意味する「平和」は、「私たちの心の内に宿る神からの贈り物であり、神だけが与えることのできる平和」だと話した。アディアンボ

戦と深刻な核の脅威の象徴となりつつある」と指摘し、「北」の3カ国(北朝鮮・ロシア・中国)と「南」の3カ国(韓国・日本・米国)による包括的ア

プローチで「北東アジア非核兵器地帯」を創設する構想を解説した。第2部のテーマは、平和とWYDソウル大会に向けた青年の役割。核兵器廃絶を訴える高校生平和大使として今年、韓国へ派遣された長崎県内の高校生2人が発表した。

山について語った。廃棄されていたのはビニールや紙ごみのほか、大量の未開封の食料や雨がっぱなど。自身も荷物を減らすために寝袋を捨てたが、そこで一人の女性から、ごみの山で見つけた未開封の食品を手渡されたという。

### 核軍縮、WYDをテーマに

## 教会と市民が国際会議

### 韓国パックス・クリステイが主催

長崎教区(中村倫明大司教)が被爆79年目の平和行事を行った翌日の8月10日、日本、韓国、米国の教会関係者を中心に平和活動や核軍縮に取り組む人々が集う「長崎カトリック平和フォーラム」(以下、CPF)が長崎市のお告げのマリア修道会本部修道院で開かれた。主催は、カトリックの国際的平和運動団体である「パックス・クリステイ」の一員、韓国パックス・ク

CPFは、2027年の「ワールドユースデー」(世界青年の日/WYD)ソウル大会に向け、若者や平和活動に携わるカトリック組織が準備の一環として開いた国際会議だ。「ともに歩む教会」を旨とするシンドス(世界代表司教会議/21年〜24年)の歩みを踏まえて、司教・司祭・修道者・青年信徒のほか非政府組織や元議員も含む40人余りが集い、

平和への課題や核廃絶、若者の役割について学び合い、対話した。開かれた対話の場「平和構築へ」CPFは、教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ」(2015年)や「世界平和の日」(1月1日)の教皇メッセージなど教会の社会教説に従い、核軍縮を含む平和構築を推進することを目的としている。そのために

志を同じくするカトリック組織や個人に、開かれた対話の場を提供する取り組みだ。今回のフォーラムは「韓国パックス・クリステイ」「米国パックス・クリステイ」「国際パックス・クリステイ」や、国際的なカトリックの学生運動「パックス・ローマナ」など6団体が主導し、開催地の長崎教区と提携して行われた。

直史氏は録画映像を通じて参加し、「核兵器のない北東アジア」3カ国(北朝鮮・ロシア・中国)と「南」の3カ国(韓国・日本・米国)による包括的ア

プローチで「北東アジア非核兵器地帯」を創設する構想を解説した。第2部のテーマは、平和とWYDソウル大会に向けた青年の役割。核兵器廃絶を訴える高校生平和大使として今年、韓国へ派遣された長崎県内の高校生2人が発表した。

山について語った。廃棄されていたのはビニールや紙ごみのほか、大量の未開封の食料や雨がっぱなど。自身も荷物を減らすために寝袋を捨てたが、そこで一人の女性から、ごみの山で見つけた未開封の食品を手渡されたという。

「ともに歩む教会」を旨とするシンドス(世界代表司教会議/21年〜24年)の歩みを踏まえて、司教・司祭・修道者・青年信徒のほか非政府組織や元議員も含む40人余りが集い、

平和への課題や核廃絶、若者の役割について学び合い、対話した。開かれた対話の場「平和構築へ」CPFは、教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ」(2015年)や「世界平和の日」(1月1日)の教皇メッセージなど教会の社会教説に従い、核軍縮を含む平和構築を推進することを目的としている。そのために

志を同じくするカトリック組織や個人に、開かれた対話の場を提供する取り組みだ。今回のフォーラムは「韓国パックス・クリステイ」「米国パックス・クリステイ」「国際パックス・クリステイ」や、国際的なカトリックの学生運動「パックス・ローマナ」など6団体が主導し、開催地の長崎教区と提携して行われた。

直史氏は録画映像を通じて参加し、「核兵器のない北東アジア」3カ国(北朝鮮・ロシア・中国)と「南」の3カ国(韓国・日本・米国)による包括的ア

プローチで「北東アジア非核兵器地帯」を創設する構想を解説した。第2部のテーマは、平和とWYDソウル大会に向けた青年の役割。核兵器廃絶を訴える高校生平和大使として今年、韓国へ派遣された長崎県内の高校生2人が発表した。

山について語った。廃棄されていたのはビニールや紙ごみのほか、大量の未開封の食料や雨がっぱなど。自身も荷物を減らすために寝袋を捨てたが、そこで一人の女性から、ごみの山で見つけた未開封の食品を手渡されたという。

山について語った。廃棄されていたのはビニールや紙ごみのほか、大量の未開封の食料や雨がっぱなど。自身も荷物を減らすために寝袋を捨てたが、そこで一人の女性から、ごみの山で見つけた未開封の食品を手渡されたという。



核廃絶に向け対話を重ねる日米韓の参加者たち



分科会で平和とは何かを考えた子どもたち



マ教皇庁立聖書研究所、エルサレム聖書研究所で旧約聖書を専攻し、博士課程を修了した。帰国後は真生

松崎生(ひらぎ・あけお)神父(マリア会)7月30日、東京都内の病院で膵臓がんのため逝去。78歳。1945年京都府生まれ。65年初誓願。73年終生誓願。76年司祭叙階。79年から約10年間、ローマ教皇庁立聖書研究所、エルサレム聖書研究所で旧約聖書を専攻し、博士課程を修了した。帰国後は真生